【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 中間評価

達成度(評価)

- A: 十分達成できている B: おおむね達成できている C: やや不十分である
- **D**: 不十分である

前年度 評価結果の概要

学校名

佐賀市立大和中学校

・いじめ問題や不登校生徒への対応、特別支援教育充実に向けての取り組みが、まだ不十分である。 ・基礎・基本の定着と学力向上に向けて、教職員の授業改善への意識を高める必要がある。

学校教育目標

「思いやりの心とチャレンジ精神に満ちあふれた生徒の育成」

<校訓>『大和協力』 (やる気・まごころ・ともに響き合い高め合う)

3 本年度の重点目標

①心の教育・人権教育の推進 ②学力の向上 ③特別支援教育の充実 ④業務改善・教職員の働き方改革の推進

重点取組内容·成果指標 5 最終評価								
共通評価項目								主な担当者
重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		7.672.7 8	
評価項目	取組内容	成果指標 (数值目標)	会 体 い 4人 小丘	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上		В	・「めあて」88%「話し合う活動」81%「まとめ」7 8%の生徒が指導過程を意識できている。学 カ向上対策評価シートに示したマイプランの 成果指標を達成した教師66%。	В	・一斉授業ばかりではなく、グループ学習で人に教えることや説明できることは大切なこと。 発表力や表現力を養うためにも必要なこと.	·学力向上対策コーディネータ ·研究主任
	○基礎・基本の定着に向けた、わかる授 業の実践	O「授業がわかる」「授業にやる気がある」という生徒の肯定的評価を80%以上とする。	・教育センターの講座授業を活用し、教職員の指導力の向上を図る。	A	・「授業がわかる」85%。「授業中、しっかりと 先生の話を聞き、やる気をもって学習に取り 組んでいる」86%の生徒が肯定的評価。	A	・授業の様子を見たところ、先生方の授業への工夫や生徒たちの取り組みについて、真剣 に楽しそうに授業を受けていた。	·学力向上対策コーディネーク ·研究主任
心		育てようとしている」について肯定的評	・道徳科の授業づくりのに関する校内研修を実施する。 ・人権・同和教育の視点に基づいた授業 実践を行う。	A	・「命を大切にする心や思いやりの心を育てようとしている」について生徒85%、保護者8 2%が肯定的評価。各学年計画的に道徳授 業を進めた。	A	・生徒・保護者アンケート項目でも肯定的な回答が80%以上あり、よい傾向だと思う。	·道德教育推進教師 ·人権·同和教育担当者
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の 充実	○「学校は、いじめなどのない楽しい学校をつくろうとしている」という肯定的評価を生徒・保護者ともに80%以上とする。	・毎月、生活アンケートを実施し、生徒の 実態を把握し、未然防止に努める。	A	・「学校は、いじめなどのない楽しい学校をつく ろうとしている」生徒83%、保護者70%が肯 定的評価。「法によるいじめ」の職員研修を実 施して覚知、認知について認識を改めた。	A	・いじめの早期発見が大切なので、毎月の生活アンケートは継続してほしい。	·生徒指導主事 ·生活部
Į.	◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上とする。	・教育活動全般(道徳の授業や部活動も 含め)を通して、自ら夢や目標について 考えさせる時間を確保する。	В	- 「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒は77%。7月調査から12月調査にかけて2ポイント上昇。	В	・健康で元気、やる気のある生徒を育ててほしい。実業高校から大学への進学など、進路についてもいろいろなケースがある。	· 進路指導主事 · 道徳教育推進教師
●健康・体つくり	❹「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・毎朝の教職員の輪番による交通安全 指導を継続して実施する。 ・登下校時の自転車の交通指導を、地域やPTA等に協力を依頼する。	В	・毎朝の交通安全指導を実施。 ・「大和中の生徒は、交通ルールをきちんと守って 通行している」について生徒61%、保護者52% が肯定的評価。マナーについて改善が見られる も、PTAIにも安全指導の要請をするなど計画して	В	・信号待ちの様子などから、自転車のマナー がだんだんとよくなっているように思う。	·安全教育担当 ·交通安全部
●健康・体 ノベッ	○部活動の充実	○「部活動は充実した活動になっているか」という生徒の肯定的評価を80%以上とする。	・「部活動の活動方針」に沿った活動を 行う。 ・適切な指導を進め、生徒の自主性・自 立性を育成し、体力の向上を図る。	A	・「部活動は充実した活動になっているか」に ついて生徒83%が肯定的評価。月活動計画 毎に部活動休養日の設定ができた。 自主的な活動ができるよう指導を継続。	A	・部活動の成果も出ていて、よいと思う。以前 は部活動が長すぎるとの苦言が寄せられてい たが、今年度はそのような話を聞かない。	·部活動担当 ·部活動顧問者会
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間 の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校 等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定と徹底を図る。 ・タイムカード方式の業務記録票で勤務 時間の可視化と適正化を図る。 ・部活動休養日の設定と徹底を図る。	A	・部活動休養日と定時退勤日の設定と実施を 徹底できた。 ・タイムカード方式の業務記録票で勤務時間 の可視化と時間外勤務の削減(昨年比)が図 れた。	A	・健康に留意しながら、改善に向けてほしい。	•管理職
	〇(学校独自重点取組·任意)	〇(学校独自成果指標·任意)						
本年度重点的に取り組む独自評価項目								
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	关怀的权恒	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
〇特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	〇特別支援教育に関する専門性が向上 した教員80%以上とする。	・特別支援教育に関する校内研修会を 実施する。 ・定期的に特別支援教育委員会を開催 する。 ・巡回相談やその他専門機関と連携す	В	・専門家と連携して定期的にケース会議、情報交換を行った。 ・特別支援担当職員と4回勉強会を開いた。	В	・特別支援教育の充実のために力を注いである。学校は個々の生徒にもよく対応していると思う。	•特別支援教育コーディネータ
の不登校生徒への支援体制の充実	の充実	○不登校生徒を全校生徒の5%以下にする。 ○「先生たちは相談事や悩みに適切に 応じてくれる」という生徒の肯定的評価 を80%以上とする。	・不登校対策に関する校内研修会を実施する。 ・定期的に教育相談部会を開催する。 ・定、SC、SSW、学習支援員、サポート相談 員と連携し、当該生徒や家庭へ適切な 働きかけをする。	A	・不登校生徒(30日以上・2月末)は全校生徒の 4.7%。 ・「先生たちは相談事や悩みに適切に応じてくれ る」について生徒84%が肯定的評価。 ・担任、教育相談担当、SC、SSW、学数指導員、サ ボート相談員の連携を強化して、個に応じた支援 を行った。	A	・不登校生徒への対応、支援体制について、 学校側の連携、努力がよく行われている。	•教育相談コーディネーター
0	〇(学校独自重点取組・任意)	〇(学校独自成果指標·任意)			-		·	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

・人権教育を中心とした研究主題を「一人ひとりが居心地のよい学校をめざした人権教育」と設定して取り組んだ。授業をはじめ、様々な活動の中に人権教育の視点を取り入れた実践を行った。「命を大切にする心や思いやりの心を

5 総合評価・ 次年度への展望 ・人権教育を中心とした研究主題を「一人ひとりが居心地のよい学校をめさした人権教育」と設定して取り組んた。授業をはしめ、様々な活動の中に人権教育の視点を取り入れた実践を行った。「命を大切にする心や思いやりの心を育てようとしている」アンケート項目に生徒、保護者とも肯定的評価をしている。「命を大切にする心や思いやりの心を育てようとしている」アンケート項目に生徒、保護者とも肯定的評価をしている。 ・「めあて」「話し合う活動」「まとめ」を意識した指導過程で共通実践を図ることができた。生徒の授業に対する意欲や意識については肯定的なよい状況ではある。しかし、学力向上を実感している生徒の割合はまだ低い。これまでの共通実践の部分をしっかりと継続させるとともに、学力向上についての取組の重点化をはかり着実に成果へつなげていく必要がある。 ・不登校生徒への対応についても校内の支援体制や校外の機関との連携もスムーズにとることができた。配慮が必要な生徒が年々増加してきている中、発達障害への対応についての研修を積むこと、不登校生徒等・いじめへの早い段階での対応を行うため情報の共有化とチームで対応するための校内体制の更なる充実に努めていきたい。 ・業務改善については、対策委員会を立ち上げ、職員会議等で業務改善について検討した。部活動休養日と定時退勤日の設定と実施を徹底でき、時間外勤務の削減(昨年比)が図れている。